

旗ポールメーカーのサンポールから待望の施設向け
日よけポールが登場。難しい操作や複雑な機構を無
くし、シンプルかつ安全に利用できるよう開発しまし
た。園児の熱中症対策におすすめです。

アルミ製 シェードポール

Shade Pole



推奨設置場所



園庭 / 公園 / テーマパーク / ドッグラン / 工場 etc...

シェードポール

Shade Pole SERIES

SHP-35U/SHP-35SA/SHP-35BS

アルミ

H3500

支柱φ100

最大瞬間風速15m/秒 以上の場合はシェードの使用を避けてください。



SHP-35U

埋込式
重量 21kg

SHP-35SA

差込式
本体重量 21kg
サヤ管重量 15kg

SHP-35BS

ベース式
本体重量 17kg
ベース重量 6kg

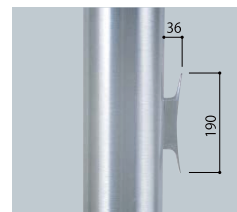
サヤ管フタ付き

冠頭部・滑車 (付属品)



シェード専用の冠頭部と滑車を新たに開発しました。キャップ構造にすることで安全性と機能性を両立しました。

クリート (付属品)



アルミダイカスト製クリート(ロープかけ)は厚肉のアルミダイカスト製ですのでハードな使用に耐えます。

専用ボール



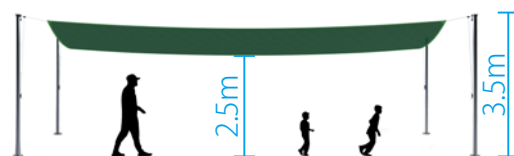
旗ボールの知見を活かし、新たにシェード専用ボールを開発しました。

ロープ (付属品)



ロープはポリエステル繊維(テロン) 太さφ8金剛打ちです。ロープの長さは6mがセットされております。

ポール高さとシェード生地について



※シェードの中心は自重で約1m程度垂れ下ります。

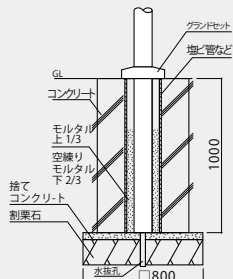
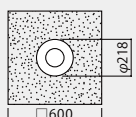
■ 価格につきましてはお問い合わせください。

用途に合わせた施工方法が選べます。

一言で言うと

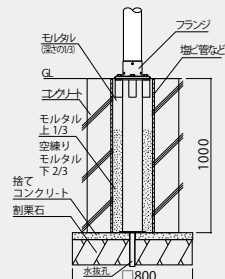
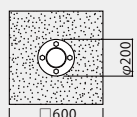
埋込式

コンクリート基礎に完全固定させます。



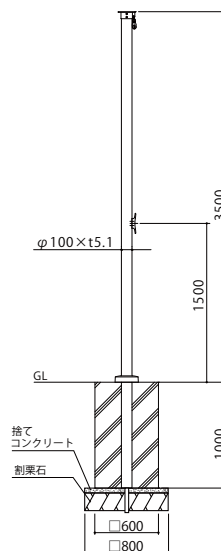
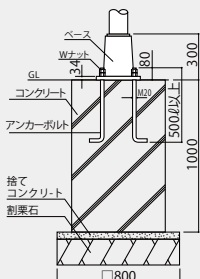
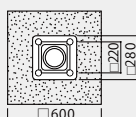
差込式

支柱を抜くことも可能フタつきです。

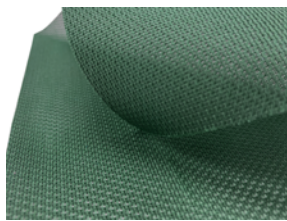


ベース式

アンカーボルトで固定し移設も可能です。



■メッシュ生地 ※特寸の場合、ご相談ください。



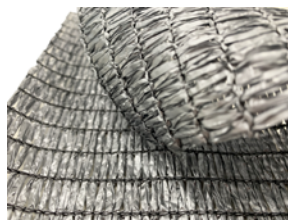
🔥 防炎加工

遮光率 85%

標準生地
サイズ 5m×3.6m 重量 4 kg

SHP-3650-UV

(収納袋付属)



軽量

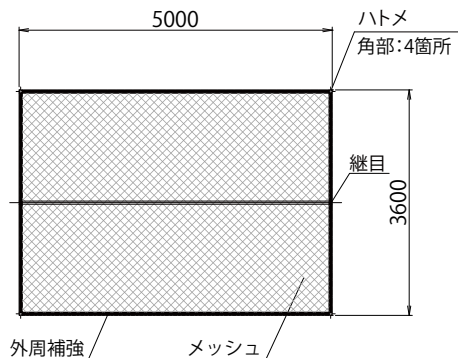
遮光率 85～90%

標準生地
サイズ 5m×3.6m 重量 2 kg

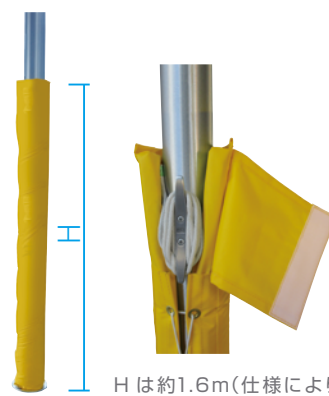
SHP-3650-DA

(収納袋付属)

■標準生地サイズ ※特寸の場合、ご相談ください。



■オプション



ポールカバー

人が接触しても柔らかいウレタン素材。
クリートとロープのカバーを兼ね、安全性に配慮したポールカバーです。

SHP-13C

(SHP-35BS用)

SHP-15C

(SHP-35U/35SA用)

H は約1.6m(仕様により異なります)

- 価格につきましてはお問い合わせください。
- 必ずメッシュ生地をご使用ください。
- 標準生地サイズ以外を検討している場合必ずご相談ください。
設置方法や生地サイズによっては破損する恐れがあります。
- 最大瞬間風速15m/秒 以上の場合はシェードの使用を避けてください。
- 設置は地上設置にかぎります。
- 製品写真はイメージのため、実際の色味とは異なる場合がございます。

子どもは熱中症になりやすい

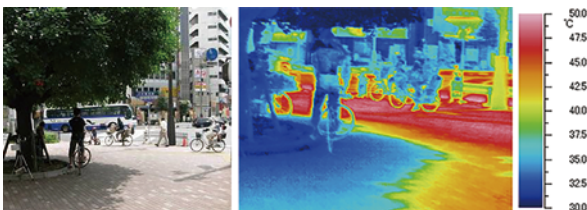


乳幼児は大人と比べて熱中症になりやすく、重症化しやすいとされています。なぜなら体温調整機能、特に汗をかく機能が未発達で体の外へ熱を逃しにくいという特徴や、体内の水分の割合が高いために外気温の影響を受けやすいという特徴を持っているからです。子供は大人よりも体重に比べて身体の表面積が広いため、気温の影響を受けやすいです。また、身長が低い分、地面に近い分、照り返しの影響を強く受けます。そのため、気温が32度の時、子供が感じている温度は35度といわれています。大人が体感しているよりも、高い気温の中で子どもは過ごしているのです。また、子どもは自分で熱中症対策をすることが難しいです。自分で体調の変化を訴えられないことがあるため、大人による予防が重要になります。

出典：東京都子どもセーフティプロジェクト

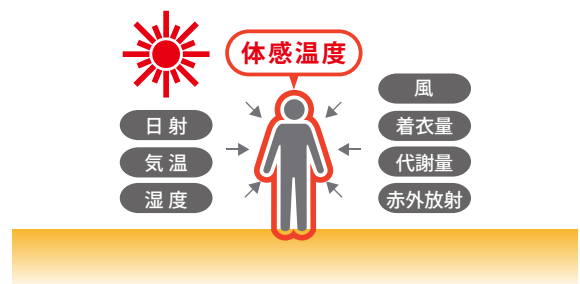
<https://kodomosafetytpj.metro.tokyo.lg.jp/column/vol-009/> (参照2025-3-24)

日かげと体感温度



環境省まちなかの暑さ対策ガイドラインによる試験データより抜粋

日陰は日向に比べて体感温度が低く感じられます。これは、日陰では太陽の光が直接当たらず、また、日向よりも路面からの赤外放射が少ないためです。具体的には、日よけや日陰を設置することで、体感温度が5～7℃低下するとされています。



体感温度とは、気温だけではなく、湿度、風の強さ日射や高温化した路面などからの反射熱を考慮して求める指標で、人が感じる「暑さ」や「涼しさ」を表します。